

五月夜能

五月二十九日(金) 午後六時三十分始

18:30 鼎談解説

19:00 長唄黎明 西垣 秀彦

19:20 野守 尚史

後見 宝生 和英 水生 優 澤田 宏司 地謡 金辰賢 金野巳井 良泰和 充大磨郎

ワキ 則久 英志 間 中村 修一 大鼓 佃 良太郎 小鼓 田邊 恭資 太鼓 熊大本川 俊典 良

味見 優 三味線 坂口あまね 笛 高木 瑞記 囃子

仕舞

三山 輪 水田 宏司 優 藤金佐辰 井野野巳 秋泰玄和 雅大宜磨

《長唄出演者》



西垣 秀彦



味見 優



坂口 あまね



高木 瑞記

能「野守」シテ

東川 尚史 (ひがしかわ たかし) シテ方宝生流能楽師

昭和55年生まれ。シテ方宝生流東川光夫の長男。19世家宝生和英に師事。昭和61年「鞍馬天狗」花見で初舞台を踏む。平成19年「草薙」にて初シテを勤め、これまでに「翁」千歳「石橋」「道成寺」「乱」を披く。また自身の同門会「尚月会」を主宰し、指導にあたっている。

野守 ~あらすじ~

羽黒山の山伏が奈良春日野に着くと、一人の老人に会います。山伏がそこにある池の名を尋ねると野守の鏡と答え、また真の鏡は鬼神の持つものであると言い、春日野の鬼が昼は人、夜は鬼となって野を守ったことを語ります。さらに「はし鷹の野守の鏡…」の歌の元になった謂れを語った老人は、真の鏡を見せようと塚の中に消え失せます。深更になって山伏が祈ると、鏡を持った鬼神が塚の中より現れ、森羅万象を鏡に映し出して見せ、大地を踏み破って帰って行きます。

黎明 (黎明曲 あけぼの)

東京藝術大学名誉教授・初代東音会会長であった山田抄太郎が33歳の時「三弦合奏曲第二回私演会」で発表した純演奏曲である。作詞者中内蝶二と共に富士吉田へ出掛け折、刻々と色の変わっていく夜明けの富士の美しさを目の当たりにし、その感銘を叙情的に音楽化している。本手と替手の絡み合いが巧みで、三味線の名手といわれた山田抄太郎の本領が発揮されている。前弾は東の空に明けを告げる鐘と鶏のざわめき。やがて夜が明け、目前に広がる色とりずみのうつろいを表現。さらに町のざわめきを地歌風の合方できかせ、人々の生きる力と喜びを表現し、唄い上げる。色彩感覚に溢れた印象派風の曲といえよう。

全曲12分前後の小品ながらも全く新しい作風であり、三味線音楽の可能性を大きく広げた名曲である。本年、山田抄太郎没後50年(1970年6月8日没)にあたり、師を偲び演奏させていただきます。

宝生能楽堂「ナイトモード」



開場(17:30)~開演(18:30)まで、ビストロ Abats. による夜能プレ・ディナーボックス(ワンドリンク付き)をご提供します。

1名様 ¥1,600(税込)

引換券は能楽堂事務局にて事前販売しております。

(※公演当日の販売も御座いますが数に限りがありますので、お早めにお求め下さい。)

次回公演予告

6月26日(金) 18:30 開演/17:30 開場

能「熊坂」シテ 藪 克徳 邦楽演奏

仕舞 テーマ【業】

「鶉ノ段」 辰巳大二郎

「通小町」 山内 崇生

「善知鳥」 内藤 飛能

チケット 一般 ¥3,000 / 学生 ¥2,000 (全席自由) セット券購入割引: 5枚セット 一般 ¥12,000

※セット券は4、8、9月特別公演を除く年5公演でご利用になれます。能楽堂事務局窓口でのみ販売します。

購入方法 宝生能楽堂オンラインチケット http://www.cnplayguide.com/hosho/ 宝生能楽堂事務局 03-3811-4843 (火曜~日曜10~17時)



文化庁文化芸術振興費補助金 (劇場・音楽堂等機能強化推進事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会